

「まえ」「さき」「うしろ」「あと」の時間用法と 時空間メタファー

Temporal Uses and Spatio-Temporal Metaphors of *mae*, *saki*, *ushiro*, and *ato* in Japanese

澤田 淳

SAWADA, Jun

1. はじめに

本稿では、日本語の「まえ」「うしろ」「さき」「あと」の時間用法について、時空間メタファー（時空間マッピング）の観点から考察をおこなう。

本稿の構成は次の通りである。2節では、EARLIER IS IN-FRONT, LATER IS BEHIND（より早い時点は前、より遅い時点は後ろ）と EARLIER IS BEHIND, LATER IS IN-FRONT（より早い時点は後ろ、より遅い時点は前）という2つの時空間的な対応関係のパターンが認められる点を確認する。3節では、「まえ」「うしろ」「さき」「あと」の空間用法を整理する。4節では、「まえ」「うしろ」「さき」「あと」の時間用法の特徴を、EARLIER IS IN-FRONT, LATER IS BEHIND（より早い時点は前、より遅い時点は後ろ）と、EARLIER IS BEHIND, LATER IS IN-FRONT（より早い時点は後ろ、より遅い時点は前）の2つの時空間的な対応関係のパターンに分けて考察する¹。5節はまとめである。

2. 空間的な前・後と時間的な早・遅の対応関係のパターン

多くの言語において、IN-FRONT（前）、BEHIND（後ろ）を表す空間詞が、時空間メタファー（時空間マッピング）を介して、EARLIER（より早い）、LATER（より遅い）を表す時間詞へと転用されている点が報告されている（Clark（1973）、Fillmore（1975、1997）、Traugott（1975、1978）、Hill（1978）、Heine, Claud and Hünemeyer（1991）、Haspelmath（1997）、Moore（2001、2014）、Núñez and Sweetser（2006）、篠原和子（2008）、Shinohara and Pardeshi（2011）、Levinson and Majid（2013）、Dancygier and Sweetser

¹ 本稿では、英語の大文字表記 IN-FRONT / BEHIND を、空間的な前方 / 後方を表す空間詞の汎言語的な総称として用いる。また、EARLIER / LATER を、時間的により早い / より遅いことを示す時間詞の汎言語的な総称として用いる。

(2014) など)。そこでは、通言語的に次の2つの時空間的な対応関係のパターンが認められる点が指摘されている (Clark (1973)、Fillmore (1975、1997)、Traugott (1978)、Moore (2014)、篠原和子 (2008) など)。

- (1) a. EARLIER IS IN-FRONT, LATER IS BEHIND (より早い時点は前、より遅い時点は後ろ)
- b. EARLIER IS BEHIND, LATER IS IN-FRONT (より早い時点は後ろ、より遅い時点は前)

たとえば、英語を例に考えてみよう。次のa文の before、after は、それぞれ、EARLIER IS IN-FRONT、LATER IS BEHIND の対応関係を反映している (ここでは、Fillmore (1997: 46)、Dancygier and Sweetser (2014: 169) に従い、before、after が空間由来の時間詞であるとみなしている²⁾)。一方、b文の behind、ahead of は、それぞれ、EARLIER IS BEHIND、LATER IS IN-FRONT の対応関係を反映している。

- (2) a. Before that time they were successful, after that time they were unsuccessful.
[EARLIER IS IN-FRONT, LATER IS BEHIND]
- b. Success lay behind them, failure lay ahead of them.
[EARLIER IS BEHIND, LATER IS IN-FRONT]
(Fillmore (1997: 46))

また、以下の例において、a文の behind、back は、EARLIER IS BEHIND の対応関係を反映しており、b文の in front of、ahead は、LATER IS IN-FRONT の対応関係を反映している。

- (3) a. The past is behind me. [EARLIER IS BEHIND]
- b. The future lies in front of us. [LATER IS IN-FRONT]
(Evans and Green (2006: 92))
- (4) a. It happened way back in the past. [EARLIER IS BEHIND]
- b. It will happen far ahead in the future. [LATER IS IN-FRONT]
(Casasanto (2016: 69))

²⁾ before は古英語の biforan/beforan (bi (そばに) + foran (前に)), after は古英語の æf (離れて) + ter (比較級語尾) に由来する (中島文雄・寺澤芳雄 (編) (1970) 『英語語源小辞典』 (研究社))。Dancygier and Sweetser (2014: 109) [野村益寛ほか (訳) (2021: 231)] は、「before の fore は forehead (ひたい) の fore と同じであり、船の前と後ろの端は、今でも fore (船首) と aft (船尾) と呼ばれている」点を指摘している。

上の (2b) の ahead of、(4b) の ahead は、LATER IS IN-FRONT の対応関係を反映しているが、次の例の ahead of は、EARLIER IS IN-FRONT の対応関係を反映している。

(5) Monday is always two days ahead of Wednesday.

[EARLIER IS IN-FRONT] (Sweetser and Gaby (2017: 628))

Moore (2014: 122) は、EARLIER IS IN-FRONT, LATER IS BEHIND の時空間的な対応関係は、「時間順序」(temporal sequence)³の時空間メタファーによって成り立っており、一方、EARLIER IS BEHIND, LATER IS IN-FRONT の時空間的な対応関係は、「自己移動」(moving ego) の時空間メタファーによって成り立っている点を指摘している。本稿では、この点を、日本語の「まえ」「うしろ」「さき」「あと」をもとに検証する。

3. 「まえ」「うしろ」「さき」「あと」の空間用法

はじめに、「まえ」「うしろ」「さき」「あと」の空間用法を整理しておこう⁴。ここでは、「まえ／うしろ」と「さき／あと」に分けて整理をおこなう。

空間用法の「まえ」「うしろ」は、次のようなケースで使われる。

(6) 空間用法の「まえ」「うしろ」が使用されるケース

ケース 1: 人間・動物では、視覚器官が備わっているほうが「まえ」、その反対側が「うしろ」。

例) : 太郎の { (目の) まえ／うしろ }

ケース 2: 動く機械は、前進するように考案されているほうが「まえ」、その反対側が「うしろ」。

例) : 車の { まえ／うしろ }

ケース 3: 動く物体は、先に到着する部分が「まえ」、後に到着する部分が「うしろ」。

例) : 電車の { まえ／うしろ }

ケース 4: 機器や家具は、使用者が利用する側が「まえ」、その反対側が「うしろ」。

例) : { パソコン／たんす } の { まえ／うしろ }

³ Moore (2014) では、「時間順序」のメタファーは、SEQUENCE IS RELATIVE POSITION ON A PATH のメタファーと称されている。

⁴ 「まえ」「うしろ」「さき」「あと」の空間用法については、Fillmore (1975, 1997)、森田良行 (1989)、小泉保 (1990)、渡辺実 (1995)、国広哲弥 (1997)、碓井智子 (2003)、渡辺伸治 (2003, 2006)、篠原和子 (2007, 2008)、真栄城玄太 (2012)、澤田淳 (2022) などとも参照されたい。

ケース5：建物は、主な出入口のあるほうが「まえ」、その反対側が「うしろ」。

例：{店／家} の {まえ／うしろ}

ケース6：建物や部屋の中では、その中において主だった場所（例：祭壇、黒板、舞台）のあるほうが「まえ」、その反対側が「うしろ」。

例：教室の {まえ／うしろ}

ケース7：自己（知覚者）の前方に参照物がある場合、自己（知覚者）から見て、参照物の手前側が「まえ」、参照物の後方側が「うしろ」。

例：木の {まえ／うしろ} に自転車が置いてある。

ケース8：一方向に順列している（一方向に進む）複数の個体のうち、先に並ぶ（進む）個体の位置が「まえ」、後に並ぶ（後を追う）個体の位置が「うしろ」。

例：[運動会の大玉転がしの状況で] 白い大玉の {まえ／うしろ} を赤い大玉が転がっている。

一方、空間用法の「さき」「あと」は、次のようなケースで使われる（ここでは、(i)「さき」「あと」が対称的となるケース、(ii)「さき」のみに認められるケース、(iii)「あと」のみに認められるケースに分けて整理する）。

(7) 空間用法の「さき」「あと」

(i) 「さき」「あと」が対称的となるケース

ケース1：移動する人または視線を向ける人の眼前・前方の空間が「さき」、背後・後方の空間が「あと」。

例) このさきは行き止まりだ。

これ以上あとには引けない。

ケース2：一方向に順列している（一方向に進む）複数の個体のうち、先に並ぶ（進む）個体の位置が「さき」、後に並ぶ（後を追う）個体の位置が「あと」。

例) [運動会の大玉転がしの状況で] 白い大玉の {さき／あと} を赤い大玉が転がっている。

(ii) 「さき」のみに認められるケース

ケース3：移動する人または視線を向ける人の前方にある参照地よりさらに向こう（遠く）にある空間を指す「さき」。

例) あの交差点のさきにガソリンスタンドがある。

(iii) 「あと」のみに認められるケース

ケース 4: 移動したもの（者・物）が残した跡・足跡を指す「あと」。

例) あとをたどる。

このように、「まえ」「うしろ」「さき」「あと」の空間用法には、多様なケースが認められるが、「まえ」「うしろ」「さき」「あと」の時間用法がこのうちのどのケースの空間用法から転用されたのかは、必ずしも自明ではない。次節では、EARLIER IS IN-FRONT, LATER IS BEHIND の対応関係を示す「まえ」「うしろ」「さき」「あと」の時間用法と、EARLIER IS BEHIND, LATER IS IN-FRONT の対応関係を示す「まえ」「うしろ」「さき」「あと」の時間用法が、それぞれ、異なる空間用法を源泉とする時間用法である点を明らかにする。

4. 「まえ」「うしろ」「さき」「あと」の時間用法

4.1. EARLIER IS IN-FRONT の「まえ」「さき」、LATER IS BEHIND の「うしろ」「あと」

はじめに、EARLIER IS IN-FRONT, LATER IS BEHIND の対応関係を示す「まえ」「うしろ」「さき」「あと」から見ていこう。

次の例は、EARLIER IS IN-FRONT の対応関係を示す時間用法の「まえ」「さき」、LATER IS BEHIND の対応関係を示す時間用法の「あと」の例である（この例では、「うしろ」は使えない）。

(8) 大政奉還 {のまえ／＊のうしろ／よりさき／のあと} に起こった出来事。（時間用法）

このような EARLIER IS IN-FRONT, LATER IS BEHIND の対応関係を示す「まえ」「うしろ」「さき」「あと」の時間用法が源泉とする空間用法は、次の例に示されるような「空間的な順列」を示す空間用法（＝（6）のケース 8、（7）のケース 2）であると考えられる。

(9) （運動会の大玉転がしでの状況）

白い大玉の {まえ／うしろ／さき／あと} を赤い大玉が転がっている。（空間用法）

このような空間的な順列を表す空間用法では、参照物（上の例では白い大玉）、対象物（上の例では赤い大玉）ともに、それ自体は前後の方向軸を持たない。ここでの前後の方向軸は、参照物と対象物が一方向に順列している（一方向に進む）ことによって付与されている。

このように、EARLIER IS IN-FRONT, LATER IS BEHIND の対応関係を示す「まえ」「うしろ」「さき」「あと」の時間用法は、一方向に順列している（一方向に進む）複数の個体の空間的な順列関係が、複数の出来事の時間的な順序関係へと比喩的にマッピングされたこと

で成立した用法であるといえる。

たとえば、次の(10)、(11)の「先」は空間用法(空間的順序)の「さき」であり、(12)、(13)の「先」は時間用法(EARLIER IS IN-FRONT)の「さき」である。

- (10) 車は、駅の乗車口に着いた。

課長が先に立って構内にはいった。

(松本清張『眼の壁』11頁)(空間用法)

- (11) 「ご案内します。」

と、きびきびした様子で、先に立って建物の内に入っていった。

(松本清張『眼の壁』16頁)(空間用法)

- (12) 善良な関野課長が、額に脂汗をにじませて必死の努力をしているかと思うと、萩崎竜雄は先に帰る気持になれなかった。

(松本清張『眼の壁』10頁)(時間用法)

[EARLIER IS IN-FRONTの「さき」]

- (13) 「ずいぶん、暖くなりましたね。」

竜雄は課長を気楽にしようとそんなことをぼんやり言ったが、課長はそれには答えないで、先にタクシーに乗りこんだ。

(松本清張『眼の壁』10頁)(時間用法)

[EARLIER IS IN-FRONTの「さき」]

さらに、次の例を見てみよう。

- (14) 「(略) もし、夫婦がここで話をするつもりだったら、いっしょに宿を出て、同じケーブルで昇るはずだ。奥さんが十分も遅れて出るというのは、どういうわけだろう」
「旦那さんを先に出して、奥さんがあとから追って行くことだってあるわ。場所を決めてね」

(松本清張『蒼い描点』167-168頁)

(EARLIER IS IN-FRONTの「さき」、LATER IS BEHINDの「あと」)

ここでの「さき」「あと」は、「旦那さん」の出立と「奥さん」の出立の時間的な順序関係(時間的な先・後の関係)を表す点で、時間用法(EARLIER IS IN-FRONT, LATER IS BEHIND)の「さき」「あと」と解釈される。一方、次の例の場合には、「さき」「あと」は、「旦那さん」と「奥さん」の空間的な順序関係(空間的な先・後の関係)を表す空間用法の「さき」「あと」と解釈される。

(15) 奥さんは先に行く旦那さんのあとについて行った。(空間用法)

Moore (2014: 122) は、EARLIER IS IN-FRONT, LATER IS BEHIND の時空間的な対応関係は、「時間順序」(temporal sequence) の時空間メタファー (Moore (2014) の用語では、SEQUENCE IS RELATIVE POSITION ON A PATH と称される時空間メタファー) を介して成立していると想定している。この点は、日本語の EARLIER IS IN-FRONT, LATER IS BEHIND の対応関係を示す「まえ」「うしろ」「さき」「あと」の時間用法にも当てはまる。次の図 1 は、「時間順序」の時空間メタファーの図式である (複数の並んでいる丸は、出来事を表す) (Evans and Green (2006: 86))。

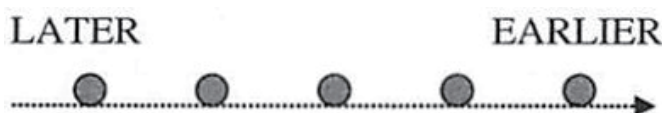


図 1: 「時間順序」のメタファー (Evans and Green (2006: 86))

EARLIER IS IN-FRONT, LATER IS BEHIND の対応関係を示す (すなわち、「時間順序」のメタファーを反映する) 「まえ」「さき」「あと」の時間用法は、先に見た (8) の例のように、出来事の時間的な順序関係を指定する参照時が発話時以外の時点となっているケース (この場合、「まえ」「さき」は、参照時より前の時間を指し、「あと」は、参照時より後の時間を指す) 以外に、以下の例のように、出来事の時間的な順序関係を指定する参照時が発話時と一致しているケース (この場合、「まえ」「さき」は発話時より前の時間 (= 過去) を指し、「あと」は発話時より後の時間 (= 未来) を指す) がある (渡辺実 (1995) も参照)⁵。

⁵ 読みは異なるが、以下の例の「^{せん}先」は、「以前」の意味を表しており、EARLIER IS IN-FRONT の「さき」の同類といえる。

(i) 「でも、そうおっしゃられると、もう^{せん}先に、鶴原さんがこの家をたいそうほめてくださって、自分もこんな家を建てたいと言われたことがありましたわ。その折のご参考に、外から写真に撮られたのかも分かりませんね。」

(松本清張『ゼロの焦点』79 頁)

(ii) 「君がフリーになってほうほうで仕事をするようになったら、ひとつ絵描きの口も紹介してもらいたいのだがな」
と、道夫はいった。
「絵描きさん？」
「と云っても、^もデザイナーだがね、図案家だ」
「ああ、もう^{せん}先、あんたに聞いたことがあるわね。まだ四谷のアパートのころ、隣の部屋に夫婦でいたとかいう人……？」

(松本清張『夜光の階段 (上)』397 頁)

- (16) a. まえの戦争で全部焼けてしまいました。(渡辺実 (1995: 24))
 b. この前の話どうなった。(渡辺実 (1995: 24))

[EARLIER IS IN-FRONT の「まえ」]

- (17) 「そうだね、歩いても近いが、荷物があるから、まあ車にしよう。」

鵜原は答えた。前に来たことのあるような言い方であった。

(松本清張『ゼロの焦点』15頁)

[EARLIER IS IN-FRONT の「まえ」]

- (18) a. さきの世界大戦の犠牲者は……(渡辺実 (1995: 20))
 b. さっきの自慢はどうしたの。(渡辺実 (1995: 23))

[EARLIER IS IN-FRONT の「さき」]

- (19) 「さっき、麓の部落で、この山に登った人があると聞いたが、君だったのか？」

(松本清張『眼の壁』221頁)

[EARLIER IS IN-FRONT の「さき」]

- (20) a. (ねえ、遊ぼうよ) うん、あとでね。(渡辺実 (1995: 21))
 b. このあと、一杯どうだ？

[LATER IS BEHIND の「あと」]

- (21) 「じゃ、あとで湖の方へ出て歩いてみよう」

鵜原が言った。

(松本清張『ゼロの焦点』15頁) [LATER IS BEHIND の「あと」]

ここで、EARLIER IS IN-FRONT の「さき」と「まえ」の違いを見てみよう。EARLIER IS IN-FRONT の「さき」と「まえ」は、ともに過去の時間を指すことができる。ただし、この過去の時間を指す「さき」と「まえ」は、時間的計量単位 (例: 「10 日」「1 週間」「5 年」) に後接する場合、異なる振る舞いを示す。過去の時間を指す場合、「(今から) 10 日まえの出来事」「(今から) 1 週間まえの出来事」「(今から) 5 年まえの出来事」のように言うのは自然であるが、同じく過去の時間を指す場合に、「(今から) 10 日さきの出来事」「(今から) 1 週間さきの出来事」「(今から) 5 年さきの出来事」のように言うのは筆者の内省ではやや違和感がある。

ただし、手元には、以下のような過去の時間を指す「時間的計量単位 + さき」の実例がある (室生犀星「幼年時代」: 1919 年 (大正 8 年) 発表、松本清張『眼の壁』: 1958 年 (昭和 33 年) 刊行)。

- (22) 「しばらく眠らせましょうね。かあいそうにねむいんですよ。」

母のいう言葉を私はゆめうつつに、うっとりと遠いところに聞いて、幾時間かをぐったりと睡り込むことがあった。そういうとき、ふと眼をさますと、わずか暫く睡っていた間に、十日も二十日も経ってしまうような気がするのであった。何も彼も忘れ洗いざらした甘美な一瞬の楽しさ、その幽遠さは、あたかも午前に遊んだ友達が、十日もさきのことのように思われるのであった。

(室生犀星「幼年時代」『或る少女の死まで 他二篇』所収、12 頁)

[EARLIER IS IN-FRONT (過去) の「さき」]

- (23) 田村が名刺を出し、船坂先生にお目にかかりたい、と言うと、その男は不愛想に、「先生はご旅行です。」

と言った。後で聞いている竜雄は唾をのんだ。

(中略)

「いつ、お帰りでしょうか？」

「なんの用事ですか？」

相手は反問した。

「軽い時局談話をお願いにきたのですが。」

田村が言うと、

「それなら一週間ばかり先に来てください。五日前にたたれたとき、その予定でした。」

と男はじゃけんに答えた。

(松本清張『眼の壁』145 頁)

[EARLIER IS IN-FRONT (過去) の「さき」]

ただし、これらの実例における過去の時間を指す「時間的計量単位+さき」の使い方に違和感を覚える話者もいる（そのような話者にとっては、上の例では、「十日もまえ」、「一週間ばかり前」のように、「まえ」を用いるほうが自然であるとみなされる）。詳しい考察は今後の課題としたいが、歴史的に、過去の時間を指す「時間的計量単位+さき」が使われなくなってきた可能性もある。

ここまで、EARLIER IS IN-FRONT の「まえ」「さき」、LATER IS BEHIND の「あと」の事例を見てきた。先に見た(8)の例(=大政奉還 |のまえ／＊のうしろ／よりさき／のあと|に起こった出来事)では、LATER IS BEHIND の「うしろ」の使用は不可能である。では、LATER IS BEHIND の「うしろ」は存在しないのであろうか。

渡辺実(1995: 25)は、「うしろ」には、「空間用法だけがあって時間用法がない」としている。

- (24) 「まえ」の対義語とされる「うしろ」は、空間用法だけがあって時間用法がない。「うしろ」も「まえ」と共に静息的だが、正方向の「まえ」の方が、方向性において積極的であり、それ故に時の流れに参加し得るのに対して、「うしろ」は負方向の消極性の故に、遂に時間表現に参加し得ないのだ、と解してよいのではあるまいか。

(渡辺実 (1995: 25))

確かに、「うしろ」が不適格となる(8)の例や、「このまえ」「このさき」「このあと」とは言えるが、「このうしろ」とは言えないなどといった事実などを見ると、「うしろ」には時間用法がないように見える。ただし、「うしろ」が全く「時間表現に参加し得ない」とまでは言えない。たとえば、物事を予定・計画されていた時点よりも遅い時点に移動させる(遅らせる)ことを表す場合、「うしろにずらす」「うしろ倒し」などのように、「うしろ」を LATER IS BEHIND を示す時間用法として用いることができる⁶。

- (25) 開業時期をめぐっては、今年4月の国によるIR計画の認定が府市の想定より約半年遅れたことから、工期などを練り直し、開業時期を1年程度後ろにずらした。

[LATER IS BEHIND の「うしろ」]

(『朝日新聞』2023年09月06日、朝刊)

- (26) 市は再開発ビルを建設する「特定建築者」の公募の手続きを進めていたが、これをいったん白紙に戻し、新たな指針を踏まえた上で再度公募する。事業者の決定が当初の予定より1カ月半ほど後ろ倒しになるが、2028年度の完成予定時期に変更はないという。

[LATER IS BEHIND の「うしろ」]

(『朝日新聞』2023年05月25日、朝刊)

物事を予定・計画されていた時点よりも遅い時点に移動させる(遅らせる)ことを表す場合、以下のように、「あとにずらす」や「さきにずらす」ともいえる。この場合の「あと」は、既に見た LATER IS BEHIND を表し、「さき」は次節で見る LATER IS IN-FRONT を表す。

- (27) それにはまず定年延長が効果的だ。65歳まで雇用を保証する企業が増えているが、企業はさらに70歳まで延ばす努力をする。政府はそれを後押しする。「人口推計」によれば、生産年齢を69歳までに拡大すると、高齢化率を13年あとにずらすことができる。

[LATER IS BEHIND の「あと」]

(『毎日新聞』2002年02月10日、朝刊)

⁶ EARLIER IS BEHIND の「うしろ」も、部分的ではあるが認められる(4.2節参照)。

- (28) この週末、南部梅林に夫婦で観梅に行く予定だった兵庫県伊丹市の会社員（63）は「旅行社のバスツアーに申し込んでいたが、『未開』となっていたので、変更手数料二千円を余分に払って日程を一週間先にずらしたら、突然『五分咲き』になってびっくりした」と憤っていた。

[LATER IS IN-FRONT の「さき」]

(『讀賣新聞』1993年02月05日、夕刊)

「{うしろ／あと／さき}にずらす」、「うしろ倒し」の反義語は、「まえにずらす」、「まえ倒し」である。この場合の「まえ」は、EARLIER IS IN-FRONT の「まえ」であり、物事を予定・計画されていた時点よりも早い時点に移動させる（早める）ことを表す。

- (29) 名古屋市教育委員会は十七日、同市立の小、中学校、高校と幼稚園、養護学校の冬休み期間を、本年度から一日前にずらして十二月二十四日ー一月六日に変更することを決めた。

[EARLIER IS IN-FRONT の「まえ」]

(『中日新聞』1992年09月18日、朝刊)

- (30) 米メタ（旧フェイスブック）は米国時間5日、ツイッターに対抗するサービス「Threads（スレッズ）」の提供を始めた。6日に公開する予定だったが、1日前倒ししての開始となった。

[EARLIER IS IN-FRONT の「まえ」]

(『朝日新聞』2023年07月06日、夕刊)

以上の議論をまとめると、次のようになる。

- (31) EARLIER IS IN-FRONT の「まえ」「さき」、LATER IS BEHIND の「うしろ」「あと」（時間用法）の特徴：

a. 反映される時空間メタファー：

個体の空間的な順列関係が出来事の時間的な順序関係へと比喩的に写像されて形成された時間用法であり、「時間順序」（temporal sequence）の時空間メタファーを反映する。「まえ」「さき」は、参照時よりも早い時点を指し、「あと」「うしろ」は、参照時よりも遅い時点を指す。参照時と発話時が一致する場合、「まえ」「さき」は過去の時間を指し、「あと」は未来の時間を指す。

b. 源泉領域（時間用法の写像元）としての空間用法：

- ・「さき」「まえ」：一方向に並ぶ（進む）複数の個体のうち、先に並ぶ（先に進む）個体の位置を示す（例：「運動会の大玉ころがしの状況で」白い大玉の {さき／まえ}を赤い大玉が転がっている）。
- ・「あと」「うしろ」：一方向に並ぶ（進む）複数の個体のうち、後に並ぶ（後

を追う) 個体の位置を示す(例:[運動会の大玉ころがしの状況で] 白い大玉の「あと／うしろ」を赤い大玉が(追う形で) 転がっている)。

c. 留意点:

- ・ LATER IS BEHIND の「うしろ」は、基本的に、「うしろにずらす」「うしろ倒し」などのように、物事を予定・計画されていた時点よりも遅い時点に移動する(遅らせる)ことを示す場合にのみ現れる。この点で、LATER IS BEHIND の「うしろ」は、生産性・汎用性に乏しい。

4.2. EARLIER IS BEHIND の「うしろ」「あと」、LATER IS IN-FRONT の「まえ」「さき」

次に、EARLIER IS BEHIND の「うしろ」「あと」、LATER IS IN-FRONT の「まえ」「さき」について見てみよう。

Moore (2014: 122) は、EARLIER IS BEHIND, LATER IS IN-FRONT の時空間的な対応関係は、「自己移動」(moving ego) の時空間メタファーを介して成立していると想定している。この点は、日本語の EARLIER IS BEHIND, LATER IS IN-FRONT の「まえ」「うしろ」「さき」「あと」の時間用法にも当てはまる。図2は、「自己移動」のメタファーを示した図である(複数の並んでいる丸は、出来事を表す)(Evans and Green (2006: 86))。

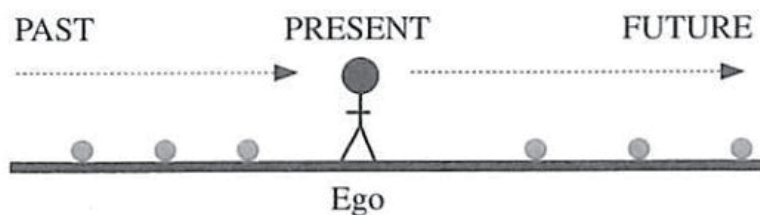


図2:「自己移動」のメタファー (Evans and Green (2006: 86))

この「自己移動」のメタファーの観点から見ると、時間軸上を過去から移動してきた自己の〈背後・後方〉にある時間(過去)は、EARLIER IS BEHIND の「あと」「うしろ」で指し示され、一方、時間軸上を未来へと移動していく自己の〈眼前・前方〉にある時間(未来)は、LATER IS IN-FRONT の「さき」「まえ」で指し示されると分析される。

ただし、EARLIER IS BEHIND の「うしろ」、LATER IS IN-FRONT の「まえ」に関しては、空間用法から完全に脱した「純然たる時間用法」とは言い難い面もある。また、EARLIER IS BEHIND の「あと」は、歴史的にその使用環境が狭まってきている可能性が指摘できる(これらの点については後述する)。

以下、「さき」「まえ」「あと」「うしろ」の順に見ていこう。

はじめに、LATER IS IN-FRONT の「さき」から見てみよう。

- (32) a. このさきどうなるか心配だ。(参照時＝発話時)
 b. 失敗のさきに成功が待っている。(参照時＝発話時以外)
 (時間用法) (LATER IS IN-FRONT の「さき」)

LATER IS IN-FRONT の「さき」は、参照時よりあとの時間を指す。この場合、参照時が発話時と一致する上の a 文のような例と、参照時が発話時以外の時点である上の b 文のような例（ここでは、失敗が生じた時点が参照時となっている）とがある。

この LATER IS IN-FRONT の「さき」の時間用法は、移動する人または視線を向ける人の眼前・前方の空間を指す「さき」の空間用法（＝（7）のケース 1）、及び、移動する人または視線を向ける人の前方にある参照物よりさらに向こう（遠く）にある空間を指す「さき」の空間用法（＝（7）のケース 3）からの比喩的マッピングにより成立した用法であると考えられる。

- (33) a. このさきは行き止まりだ。(参照地＝発話場所)
 b. 交差点のさきにガソリンスタンドがある。(参照地＝発話場所以外)
 (空間用法)

a 文は、参照地が発話場所となっている空間用法の「さき」であり、b 文は、参照地が発話場所以外となっている空間用法の「さき」である。それぞれ、参照時が発話時となっている時間用法の「さき」、参照時が発話時以外となっている時間用法の「さき」と平行性をなす。

次の例では、「さき」の前件部分「最終盤までひたすら前を見て走った」は空間的であるが、「さき」の後件部分「歴史的な快拳が待っていた」は時間的である。ここでの「さき」は、空間用法と時間用法とに跨っており、両用法が連続的であることを示唆する興味深い例である。

- (34) 過去の日本選手は、海外勢に前半まで食らいつくのが精いっぱいだった。村竹は世界のレースパターンを踏まえ、200 メートルなど長めの距離を走る練習を積極的に取り入れ、終盤の失速を最小限に抑える力を身につけた。去年出した日本タイ記録の 13 秒 04 は昨季の世界 6 位の好タイムだ。

世界選手権は 2023 年に出たが、五輪は今回が初めて。「圧倒的に経験が足りないことはわかりきっているから、むしろ割り切れる」。準決勝の前も緊張は皆無だった。最終盤までひたすら前を見て走った先に、歴史的な快拳が待っていた。

(『朝日新聞』2024 年 8 月 9 日、朝刊)

類例として、次の例が挙げられる。

- (35) 100 キロ、ゴールの先に充実感 10 月、東京と関西で エクストリームウォーク 小田原から東京へ、または姫路から大阪へ、26 時間以内に 100 キロを歩くウォーキング大会「エクストリームウォーク 100 (XW100)」が 10 月、関東と関西で開催される。2019 年から計 10 回開催された全 XW100 大会に参加、ゴールしている横浜市の会社員、山崎英樹さん (51) に、大会の魅力や歩くことの効能、そして今後の目標について聞いた。

(『朝日新聞』2024 年 09 月 03 日、朝刊)

以下の例では、自己が時間軸上を移動したさきに「待ち受ける (待つ)」未来の状況が眺望的に捉えられており、「自己移動」のメタファーが明瞭に読み取れる。

- (36) どうも、「失敗を恐れるな」と言われる割に、いざ失敗した先には、明るくない未来が待ち受けているように見えます。

[LATER IS IN-FRONT の「さき」]

(『東洋経済 ONLINE』<https://toyokeizai.net/articles/-/314110>)

- (37) 目標はリーグ 4 強のチームで活躍し、優勝すること。ミラノは昨季 5 位。「着実に近づいている。夢をかなえたい」。その先に東京五輪が待つ。

[LATER IS IN-FRONT の「さき」]

(『朝日新聞』2020 年 06 月 13 日、朝刊)

これらの例における「さき」の後件部分の動詞「待ち受けている」「待つ」を、以下のように、「やって来る」に変えると、不自然な文となる。

- (38) ?? どうも、「失敗を恐れるな」と言われる割に、いざ失敗した先には、明るくない未来がやって来るように見えます。 (cf. (36))

- (39) ?? 目標はリーグ 4 強のチームで活躍し、優勝すること。ミラノは昨季 5 位。「着実に近づいている。夢をかなえたい」。その先に東京五輪がやって来る。

(cf. (37))

LATER IS IN-FRONT の「さき」の後件には、「過去→現在→未来」への時の流れを示す「自己移動」のメタファーに馴染む表現が求められるが、上の (38)、(39) では、LATER IS IN-FRONT の「さき」の後件に、「過去←現在←未来」への時の流れを示す「時間移動」

のメタファーを示す表現「やって来る」が現れており、時の流れが一貫しない。

参照時以後の時間を指す点では、LATER IS IN-FRONT の「さき」は、LATER IS BEHIND の「あと」と等価である。次の例では、見出しでは「先」が、本文では「後」（「あと」の同類と想定する）が使われている。

(40) 案内ロボ オリパラの先へ

「SNS で発信できる時代。方法はいくらでもある。むしろコロナ禍でロボットの重要性が認識され、引き合いが増えている」

実際、オリパラ後を見据えた取り組みも始まっている。東京都心の再開発計画では、新型 HOSPI と同様のロボットの導入構想が動き出した。

（『朝日新聞』2021 年 08 月 24 日、朝刊）

ここで、LATER IS IN-FRONT の「さき」と LATER IS BEHIND の「あと」のニュアンスの違いを見てみよう。

(41) a. このさき何が起こるかは誰にもわからない。

[LATER IS IN-FRONT の「さき」]

b. このあと何が起こるかは誰にもわからない。

[LATER IS BEHIND の「あと」]

阿部宏（2000: 199）は、「さきを心配する」の場合は、単純に未来のことを心配しているというニュアンスがあるのに対して、「あとを心配する」の場合は、現在に何らかの原因が想定されていて、その結果が未来に現れることを危惧しているニュアンスがあるという違いを指摘している。このようなニュアンスの相違は、LATER IS IN-FRONT の「さき」と LATER IS BEHIND の「あと」の時空間メタファーの違いから生じるものといえる。すなわち、「自己移動」の時空間メタファーを反映する LATER IS IN-FRONT の「さき」は、移動する自己の〈眼前・前方〉である未来において生じる出来事を指すのに対して、「時間順序」の時空間メタファーを反映する LATER IS BEHIND の「あと」は、先に生じた出来事のあとに続く未来の出来事を指す。LATER IS IN-FRONT の「さき」と異なり、LATER IS BEHIND の「あと」では、未来の出来事が「目下話題となっている出来事に続いて起こる出来事」として認識されているのである。（41）の a 文と b 文においても、この違いが読み取れる。

次に、LATER IS IN-FRONT の「まえ」を見てみよう。以下の例は、LATER IS IN-FRONT の「まえ」の例とみなすことができる。

- (42) 入院中いろいろ思い悩みはしたが、後悔や不安の対象は、人生の始まりから今日までの来し方ではなく、今日から終わりまでの行く末でもなかった。直近の過去を憂え、目の前の未来が不安であったに過ぎなかった。

[LATER IS IN-FRONT の「まえ」]

(『朝日新聞』2010年01月23日、朝刊)

- (43) こはくは自分の病とともに家族の悪いものを持って旅立ってくれたような気がする。前を向いて朗らかに暮らしていきたい。きっと今も空から見守っているから。

[LATER IS IN-FRONT の「まえ」]

(『朝日新聞』2024年08月16日、朝刊)

ここでの LATER IS IN-FRONT の「まえ」の時間用法、及び、あとで見る EARLIER IS BEHIND の「うしろ」の時間用法は、〈人間・動物では、視覚器官が備わっているほうが「まえ」、その反対側が「うしろ」〉(例：太郎の { (目の) まえ／うしろ }) の空間用法 (= (6) のケース 1) から転用された用法であるといえる。

ただし、LATER IS IN-FRONT の「まえ」(及び、後述する EARLIER IS BEHIND の「うしろ」) は、完全に空間用法から脱した純然たる時間用法とはなり得ていないように見える。この点は、たとえば、上の (42) の例において、「まえ」が「目の前の未来」というように、視覚器官の「目」を伴っている点や、(43) の例において、「まえ」が「前を向いて」というように、視覚的な向きを示す表現とともに用いられている点などからも了解される。また、次のような時間的な順序関係を示す場合、LATER IS IN-FRONT 「さき」と異なり、LATER IS IN-FRONT の「まえ」の使用は不自然となる。

- (44) (LATER IS IN-FRONT の解釈で)

- a. この { さき／*まえ } どうなるか心配だ。
- b. 失敗の { さき／?? まえ } に成功が待っている。

続いて、EARLIER IS BEHIND の「あと」について見てみよう。EARLIER IS BEHIND の「あと」は、上で見た LATER IS IN-FRONT の「さき」と対義的な関係にあるといえる。ただし、EARLIER IS BEHIND の「あと」は、LATER IS IN-FRONT の「さき」よりも汎用性に乏しい。たとえば、LATER IS IN-FRONT の「さき」は、「未来」の時間を指す場合に、「このさき」「一週間さき」などといえるが、EARLIER IS BEHIND の「あと」は、「過去」の時間を指す場合に、「このあと」「一週間あと」とはいえない(「このあと」「一週間あと」は、LATER IS BEHIND の「あと」の意味でしか使えない)。渡辺実 (1995: 21, 2001: 184) は、EARLIER IS BEHIND の「あと」は、かつては汎用的に使われていたものの、歴史的にそ

の使用環境を狭めている点を示唆している（この点については、最後の5節で再度触れる）。

- (45) 時間は空間と異なって、それ自体が流れという移動性をもつ。従って「あと」を時の流れに用いるなら、以前に何かが起こった時点、すなわち過去を指すことが常識的に期待されよう。現に

四五日あとおれが処へ来て（西洋道中膝栗毛）
 のような過去の用法があったのだが、これは古い言い方となっしまい、今ではむしろ

（ねえ、遊ぼうよ） うん、あとでね
 のように未来に使うことが多い。（渡辺実（1995: 21））

- (46) ただし現代では「四五日あと」などの「あと」は消え去ろうとし、「さきのこと」などの「さき」ばかりが活潑である。（渡辺実（1995: 22））

- (47) 「^{あとげつ}後月」という言葉を聞くか読むかされたことはありませんか。過ぎ去った「先月」の意味で、私の祖母の世代なら普通に使っていた言葉です。過去から未来への経験時間で過去月を指す、まさに負方向の「あと」ですが、それが半世紀ほどの間に消え去ったのはなぜか。というのなどは、極めつきの難問でしょう。

（渡辺実（2001: 184））⁷

現代語では、EARLIER IS BEHIND の「あと」は、「あとを振り返る」などの一部の表現の中でのみ、その使用が確認される（阿部宏（2000: 202、2001: 8）、確井智子（2003: 70）も参照）。

⁷ この渡辺実（2001）の指摘に関連した記事として、『言語生活』（1961年、4月号）の「読者と編集部欄」に掲載された次の投稿記事も参照されたい。

(i) 私の祖母は現在八十歳（埼玉生れ、結婚で東京に住み四十年ほど生活。終戦後、出生地近辺に在住）ですが、すでに過ぎ去った時日をいう際、「——カ月あとに買った」という表現をします。このとき、私は「——カ月まえに……」という言いかたをするので、ときおり話に喰い違いが出てきます。祖母とは逆に、私は未来のことを指す場合に「——カ月あとに」といい、完全に違う観念にたっていることになります。言語学的にこれはどういうことでしょうか。この事例は、私の祖母だけの特殊なことでしょうか。

未来の事象を推定しているときに、祖母は「あと」に対し「さき」といいますが、私は、「あとに」を対応させていることになります。

八十歳の老人が、未来の方向に向かって、立ち過ぎたことを「あと」としているのに反し、若いものが（私一個だけでなく全体に）、目を過去に向け、これから起こりくることを「あと」として受けとめようとしているのには何か皮肉なものを感じます。

発想上ではなんの意味もないことなのでしょう。

（「読者と編集部欄」『言語生活』1961年4月号、96頁）

ここで、EARLIER IS BEHIND の「あと」が次の2種に区別されると想定してみよう⁸。

(48) EARLIER IS BEHIND を示す2種の「あと」

- a. A型の「あと」: 〈移動するもの(者・物)の背後ないし後方〉の意の空間用法の「あと」から転用された時間用法の「あと」。この場合の時間用法の「あと」は、基本的に「うしろ」に置き換え可能。
- b. B型の「あと」: 〈跡、足跡〉の意の空間用法の「あと」から転用された時間用法の「あと」。この場合の時間用法の「あと」は、「うしろ」に置き換え不可能。

以下の例の EARLIER IS BEHIND の「あと」は、〈移動するもの(者・物)の背後ないし後方〉の意の空間用法の「あと」(= (7) のケース1) から転用された A 型の時間用法の「あと」である。

- (49) 一人で何もかも頑張っていると、つい、あとを振り返りたくなります。振り返ると、どうしても、いやなことばかり目につきます。だれでも、そうです。自分が、しあわせな人生を送ってきたと決して思えない。それは現在がづらいからです。

[EARLIER IS BEHIND の「あと」(A型)]

(『讀賣新聞』2003年08月12日、朝刊)

- (50) 第1陣の原告団長で協議会の代表を務める岩永千代子さん(82)は「最初の提訴から11年目になる。もうあとを振り向かず、最後まで頑張りましょう」と呼びかけた。

[EARLIER IS BEHIND の「あと」(A型)]

(『朝日新聞』2018年02月14日、朝刊)

この A 型の時間用法の「あと」は、「うしろ」に置き換え可能である。

- (51) a. 一人で何もかも頑張っていると、つい、あと／うしろを振り返りたくなります。振り返ると、どうしても、いやなことばかり目につきます。(cf. (49))
- b. 最初の提訴から11年目になる。もう あと／うしろを振り向かず、最後まで頑張りましょう。(cf. (50))

⁸ 国広哲弥(1997: 11)は、「あと」は、「元は〈跡〉という視覚的な意味であり、〈跡〉は移動して行く人・物によって作られるものであるということが、派生的な意味である空間関係の意味に尾を引いているのだと言える」とする。本稿では、この国広哲弥(1997)の指摘を踏まえ、〈移動するもの(者・物)の背後ないし後方〉の意の「あと(後)」と〈跡、足跡〉の意の「あと(跡)」は関連した意味であると想定する。

以下の例の「うしろ」は、EARLIER IS BEHIND の「うしろ」であり、EARLIER IS BEHIND の「あと」(A 型)に置換可能である(なお、ここでの EARLIER IS BEHIND の「うしろ」は、LATER IS IN-FRONT の「まえ」と対義的關係をなす)。

- (52) 私があなたを慕い、大好きだったように、あなたが私にたくさんの愛情をかけてくれたことはよく知っています。だから私はもう少し後ろを振り返って、あなたとの思い出をかみしめて生きていきたい。 [EARLIER IS BEHIND の「うしろ」]

(『朝日新聞』2023 年 03 月 28 日、朝刊)

- (53) 「後ろを振り返ったら前に進めない。あれから一度も泣いてないんですよ」。「蔵人窯」の小野昌子さん(67)は、そう話す。7 月 10 日午前、夫の永蔵さん(69)や息子夫婦と営む窯元は、土石流に襲われた。国道沿いの工房と店舗はぺしゃんこに押しつぶされた。 [EARLIER IS BEHIND の「うしろ」]

(『朝日新聞』2023 年 11 月 23 日、朝刊)

一方、以下の例の「あと」は、〈跡、足跡〉の意の空間用法の「あと」(= (7) のケース 4)から転用された B 型の時間用法の「あと」である⁹。

- (54) 一度は無駄とみなされて消えかけたものの、技術開発が進んだ結果、ふたたびスポットライトを浴びることになったターボ。ここ 20 年ほどのたどったあとを振り返ると、繁栄の中に衰退の芽があった、でも衰退の中に次なる繁栄の芽がある話として、聞いていて前向きになれるストーリーが読み取れる。

[EARLIER IS BEHIND の「あと」(B 型)]

(『毎日新聞』2013 年 11 月 15 日)

- (55) 本書は、日本の政策が一九六七年の公害対策基本法から、七一年の環境庁の設置、九三年の環境基本法、九七年の環境アセスメント法の制定と、環境重視へと進歩してきたあとを振り返り、現在の具体的な環境政策を論評している。

[EARLIER IS BEHIND の「あと」(B 型)]

(『毎日新聞』1998 年 06 月 30 日)

⁹ 以下の例は、「足あとを振り返る」の形で使われており、〈跡、足跡〉の意がより明瞭である。

(i) 著者による「捨て犬・未来&きらら」シリーズの最新刊。小学生向け。後ろ足に障がいのある柴犬の未来は、著者のところにやって来て、今年で 15 年になった。その間の足あとを振り返る。

(『東京新聞』2020 年 09 月 28 日、夕刊)

(ii) 愛のある風景・創作活動 20 年の足あとを振り返る。 (『朝日新聞』2009 年 11 月 06 日、朝刊)

(iii) 年賀状を読むときは、自らの足あとを振り返るときでもある。これまで仕事をしてきた関東、東北、東海などの各地で知り合った人たちから届く毎年 1 度の便り。

(『朝日新聞』2002 年 01 月 09 日、朝刊)

B型の時間用法の「あと」は、次のように、「うしろ」に置き換えられない。「うしろ」は〈跡、足跡〉の意の空間用法を持たないからであろう。

- (56) a. ここ20年ほどのたどった {あと／*うしろ} を振り返ると、繁栄の中に衰退の芽があった。 (cf. (54))
- b. 環境重視へと進歩してきた {あと／*うしろ} を振り返り、現在の具体的な環境政策を論評している。 (cf. (55))

以上の議論をまとめると次のようになる。

- (57) EARLIER IS BEHIND の「うしろ」「あと」、LATER IS IN-FRONT の「まえ」「さき」(時間用法)の特徴:

- a. 反映される時空間メタファー:
 自己が時間軸上を過去から未来に向かって移動していく「自己移動」のメタファーを反映する。基本的に、「うしろ」「あと」は、移動する自己の背後・後方である過去の時間を指し、「まえ」「さき」は、移動する自己の眼前・前方である未来の時間を指す。さらに、「さき」は、参照時よりさらに前方(より未来)の時間(出来事)を指す場合にも使われる(例:失敗のさきに成功が待っている)。
- b. 源泉領域(時間用法の写像元)としての空間用法:
 ・「まえ」: 移動する人または視線を向ける人(自己)の眼前・正面の空間を指す(例:(目の) 前に広がる海を見る)。
 ・「うしろ」: 移動する人または視線を向ける人(自己)の背後・後方の空間を指す(例: うしろを振り返る)。
 ・「さき」: (i) 移動する人または視線を向ける人(自己)の前方の空間を指す(例: このさきは行き止まりだ)。(ii) 移動する人または視線を向ける人(自己)の前方にある参照地よりさらに向こう(遠く)の地点を指す(例: 交差点のさきにガソリンスタンドがある)。
 ・「あと」: (i) 移動するもの(自己)の背後・後方の空間を指す(例: これ以上あとには引けない)。(ii) 移動したものの跡・足跡を指す(例: あとをたどる)。
- c. 留意点:
 ・EARLIER IS BEHIND の「うしろ」、LATER IS IN-FRONT の「まえ」は、空間用法の延長線上にあり、完全に空間用法から脱した純然たる時間用法とはなり得ていない。

- ・ EARLIER IS BEHIND の「あと」は、かつては汎用性が高かったものの、現代語ではその使用環境が狭まっている（たとえば、現代語では、過去を指す場合に、「四、五日あと」とは言いにくい）。
- ・ EARLIER IS BEHIND の「あと」には、(i) 移動する人（自己）の背後・後方の空間を指す空間用法を引き継いだ時間用法（「うしろ」に置換可能な用法）と、(ii) 移動した人の跡・足跡を指す空間用法を引き継いだ時間用法（「うしろ」に置換不可能な用法）がある。

5. おわりに

本稿では、「まえ」「うしろ」「さき」「あと」の時間用法の特徴を、EARLIER IS IN-FRONT, LATER IS BEHIND（より早い時点は前、より遅い時点は後ろ）と、EARLIER IS BEHIND, LATER IS IN-FRONT（より早い時点は後ろ、より遅い時点は前）の2つの時空間的な対応関係のパターンに分けて考察をおこない、以下の点を明らかにした。

1. EARLIER IS IN-FRONT の「まえ」「さき」、LATER IS BEHIND の「うしろ」「あと」は、個体の空間的な順列関係が出来事の時間的な順序関係へと比喩的に写像されて形成された時間用法であり、「時間順序」(temporal sequence)の時空間メタファーを反映する。「まえ」「さき」は、参照時よりも早い時点を示し、「あと」「うしろ」は、参照時よりも遅い時点を示す（参照時と発話時が一致する場合、「まえ」「さき」は過去の時間を指し、「あと」は未来の時間を指す）。ただし、LATER IS BEHIND の「うしろ」は、基本的に、「うしろにずらす」「うしろ倒し」などのように、物事を予定・計画されていた時点よりも遅い時点に移動する（遅らせる）ことを示す場合にのみ現れ、生産性・汎用性に乏しい。
2. EARLIER IS BEHIND の「うしろ」「あと」、LATER IS IN-FRONT の「まえ」「さき」は、自己が時間軸上を過去から未来に向かって移動していく「自己移動」(moving ego)の時空間メタファーを反映する。基本的に、「うしろ」「あと」は、移動する自己の背後・後方である過去の時間を指し、「まえ」「さき」は、移動する自己の眼前・前方である未来の時間を指す。さらに、「さき」は、参照時よりさらに前方（より未来）の時間（出来事）を指す場合にも使われる（例：失敗のさきに成功が待っている）。このうち、EARLIER IS BEHIND の「うしろ」、LATER IS IN-FRONT の「まえ」は、空間用法の延長線上にあり、完全に空間用法から脱した純然たる時間用法とはなり得ていない。また、EARLIER IS BEHIND の「あと」は、かつては汎用性が高かったものの、現代語ではその使用環境が狭まっている（たとえば、現代語では、過去を指す場合に、「四、五日あと」とは言いにくい）。EARLIER IS BEHIND の「あと」には、(i) 移動する

もの（自己）の背後・後方の空間を指す空間用法を引き継いだ用法（「うしろ」に置換可能な用法）と、(ii) 移動したものの跡・足跡を指す空間用法を引き継いだ時間用法（「うしろ」に置換不可能な用法）とがある。

最後に、今後の課題を指摘しておきたい。4.2 節で触れたように、現代語では、EARLIER IS BEHIND の「あと」は、「あとを振り返る」などの限られた表現の中でしか見られない。しかしながら、歴史的には、EARLIER IS BEHIND の「あと」は、現代語よりも広い環境の中で使われていたことが、進藤咲子（1961）、渡辺実（1995、2001）などで指摘されている（注7も参照）。次は、進藤咲子（1961: 95）の指摘である。

- (58) 「あと」を過去のことを使うのは江戸時代では一般的であった。西鶴の一代男にある「二三日跡に。^{おば}嬢さまの。昼寝を。なされた時。こなたの糸まきを。あるともしらす。踏まりました。」や、三馬の浮世風呂にある「跡の替り目（注・この前の狂言の替り目）も見損^{みそく}なったよ」のような用法は、狂言にもあり、滑稽本や人情本などにも随所に見られるものである。地域的には江戸でも上方でも用いられた。また、先月^{あと}を跡月、跡^{つき}の月、先々月^{さ あとげつ}を先跡月、過ぎし昔を久しい跡などということも広く行われていた。このように月日に関してというのが普通である。まれには、「二三まい（番）^{あと}」のように、順位における「前」を意味する用法もあった。これに比べて、「まえ」を今日のように過去をさすものとして使うことはきわめて少なかった。（湯沢幸吉郎「江戸言葉の研究」を参照、たとえばコリヤードの懺悔録―寛永九年―には「私が十五年前^{まへ}お水を授かりましてござれども」のような例が見られる）。

明治も十年ごろまでは、魯文の著作や新聞の三面記事を見ても過去をさすものとして「あと」が使われているが、江戸と違う点は「まえ」もかなり使われていることである。最近、国立国語研究所で調査した明治十一・二年の総ルビつきの新聞では（ルビがない「前」はゼンとも読める）、「あと」と「まえ」の用例は九対七の割合であるから、このころには、ゆれがあったと見てよからうと思う。たとえば「お梅が二三日跡に^{あをうめ}青梅をばりばり^た給べて腹が痛み出し」（読売新聞）という例もあれば、「今より十年前^{まへ}お敬が死去^{けい}りし後^{のち}」（東京絵入新聞）のような例もある。

明治十七・八年ごろには、三遊亭円朝、高島藍泉（江戸出身）や、末広鉄腸（愛媛出身）の著作などに「あと」が散見する程度で、「まえ」が多くなっている。おそらく、このころからあまり遠くない時代に「あと」は、東京では一般に用いられなくなったのではなかろうか。（中略）

こういう「あと」の慣用を、前後の対立に関する「まえ」が侵食していったので

はなかろうかと考える。

(進藤咲子 (1961: 95))

『日本国語大辞典』(第二版)では、「あと」の語義の1つとして、「自分の過ごしてきた時間の流れの中で、現在、もしくはある時点より振り返ってみた過去の時間帯や時点。以前。前(まえ)。⇔さき。」が立てられている。この語義を示す「あと」の例を以下に挙げる(『日本国語大辞典』(第二版))。

- (59) 是と存た成らば、跡の宿(しゅく)でやどをとらう物を」
(虎寛本狂言・地蔵舞〔室町末～近世初〕)
- (60) このあと、高野参りの時、男の髪を剃りて坊主になりたるを、さてよき入道やとほめつるが
(嘶本・醒醉笑(1628)四)
- (61) あとよりも、見事な花が開いたぞ
(寛永刊本江湖集鈔〔1633〕二)
- (62) 引ふねの女は、あとにかへし、禿(かぶろ)計(ばかり)を召つれ
(浮世草子・好色一代男〔1682〕六・五)
- (63) その新助はあと月、ぢがいをしられましたといふ
(咄本・鹿野武左衛門口伝はなし〔1683〕下・八)
- (64) かのあぶら屋の九平次が、あとの月のつごもりたった一日入こと有、三日の朝は返さふと一命かけて頼むにより
(浄瑠璃・曾根崎心中〔1703〕)
- (65) 跡の月頃田舎(いなか)から山出しと見えて、荷持瘤(にもちこぶ)の跡しゃちこばった黒鬼の長助
(談義本・根無草〔1763～69〕後・一)
- (66) これでも四五年も跡(アト)までは、ちっとは水気(みづけ)があったから
(滑稽本・人間万事虚誕計-後〔1833〕)
- (67) 四五日以前(アト)おれが処へ来て
(西洋道中膝栗毛〔1870～76〕〈仮名垣魯文〉初・下)
- (68) 此頃ぢゃア斯う云ふ顔が流行(はやっ)て来ましたヨ。久しい已前(アト)北海道では大変気を持った顔で、臍臍(おっとせい)と云ったやうなアア云ふ質(たち)の顔なんで
(落語・思案の外幫間の当込み〔1889〕〈三代目三遊亭円遊〉)

このような EARLIER IS BEHIND の「あと」は、『日本国語大辞典』(第二版)が挙げる初出例から、室町末期から近世初期頃に生まれた用法であることが推定される。一方、進藤咲子(1961: 95)では、「明治十七・八年ごろには、三遊亭円朝、高島藍泉(江戸出身)や、末広鉄腸(愛媛出身)の著作などに「あと」が散見する程度で、「まえ」が多くなっている。おそらく、このころからあまり遠くない時代に「あと」は、東京では一般に用いられなくなったのではなかろうか」という指摘をおこなっている。これらの点を踏まえるなら

ば、EARLIER IS BEHIND の「あと」が生産的に使われていた期間は短かったと推察される。この背景として、進藤咲子（1961: 95）は、「まえ」による「侵食」を挙げている。金水敏（2006: 112）が指摘するように、「同じ意味領域内で複数の語が用いられる場合、一方の語が他方を駆逐し、一意味・一語という体系を作り出そうとする」現象は、日本語の歴史において幅広く認められる点を鑑みれば、過去の時間領域においても、そのような「体系の単純化」が生じたことは特段驚くことではない。しかし、なぜ、過去の時間領域から、「まえ」ではなく「あと」が追い出されたのか（「あと」ではなく「まえ」が生き延びたのか）については疑問として残る。

現代語では、「まえ」が中心的に担っている時間領域は過去であり（「まえ」は、未来を指すこともできるが（例：目の前の未来）、完全に空間用法から脱した純然たる時間用法とは言い難い）、一方、「あと」が中心的に担っているのは未来である（「あと」は、過去を指すこともできるが、「あとを振り返る」などの一部の表現の中でしか使われない）。現代語では、「まえ」と「あと」は、過去と未来の時間領域を分担するような形（重なりを避けるような形）で分布していることがわかる。このような「まえ」と「あと」の時間領域の分担化が、「あと」が過去の時間領域から追い出された背景となっている可能性がある。この点については、歴史的調査をもとに、今後さらに考察を深めていきたい。

引用例出典

- 松本清張『眼の壁』光文社、1958年
 松本清張『ゼロの焦点』光文社、1959年
 松本清張『蒼い描点』（新潮文庫）、新潮社、1959年
 松本清張『夜光の階段（上）』（新潮文庫）、新潮社、1981年
 室生犀星『或る少女の死まで 他二篇』岩波書店、2003年

参考文献

- 阿部宏（2000）「空間から時間へーさき、あと、まえー」『言語と文化』15: 191-204.
 阿部宏（2001）「「あと」の時間的用法再考」『東北大学文学研究科研究年報』51: 1-12. 東北大学文学研究科.
 Casasanto, Daniel（2016）Temporal language and temporal thinking may not go hand in hand. In: Barbara Lewandowska-Tomaszczyk（ed.）*Conceptualization of Time*. 67-84. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.
 Clark, Herbert（1973）Space, time, semantics, and the child. In: Timothy E. Moore（ed.）*Cognitive Development and the Acquisition of Language*. 27-63. New York: Academic Press.
 Dancygier, Barbara and Eve Sweetser（2014）*Figurative Language*. Cambridge: Cambridge University Press.（野村益寛・眞田敬介・山添秀剛・對馬康博・水野優子（訳）（2021）『「比喩」とは何かー認知言語学からのアプローチー』東京：開拓社.）

- Evans, Vyvyan (2013) *Language and Time: A Cognitive Linguistics Approach*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Evans, Vyvyan and Melanie Green (2006) *Cognitive Linguistics: An Introduction*. Edinburgh: Edinburgh University Press.
- Fillmore, Charles J. (1975) *Santa Cruz Lectures on Deixis 1971*. Bloomington: Indiana University Linguistics Club.
- Fillmore, Charles. J. (1997) *Lectures on Deixis*. Stanford, California: CSLI Publication. (Fillmore, Charles. J. (著)・澤田淳 (訳) (2022) 『ダイクシス講義』 東京: 開拓社.)
- Haspelmath, Martin (1997) *From Space to Time: Temporal Adverbials in the World's Languages*. München: Lincom Europa.
- Heine, Bernd, Ulrike Claudi and Friederike Hünemeyer (1991) *Grammaticalization: A Conceptual Framework*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Hill, Clifford Alden (1978) Linguistic representation of spatial and temporal orientation. *Proceedings of the Fourth Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society*. 524-538.
- 金水敏 (2006) 『日本語存在表現の歴史』 東京: ひつじ書房.
- 国広哲弥 (1997) 『理想の国語辞典』 東京: 大修館書店.
- 小泉保 (1990) 『言外の言語学 — 日本語語用論 —』 東京: 三省堂.
- Lakoff, George and Mark Johnson. 1980. *Metaphors We Live By*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Levinson, Stephen C. (2003) *Space in Language and Cognition: Exploration in Cognitive Diversity*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Levinson, Stephen C. and Asifa Majid (2013) The island of time: Yéli Dnye, the language of Rossel Island. *Frontiers in Psychology* 4: 1-11.
- 真栄城玄太 (2012) 「「さき」の空間的意味についての考察」『KLS』32: 243-255. 関西言語学会.
- Moore, Kevin Ezra (2001) Deixis and the FRONT/BACK opposition in temporal metaphors. In: Alan Cienki, Barbara J. Luka and Michael B. Smith (eds.) *Conceptual and Discourse Factors in Linguistic Structure*. 154-167. Stanford, California: CSLI Publications.
- Moore, Kevin Ezra (2014) *The Spatial Language of Time*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』 東京: 角川書店.
- Núñez, Rafael E. and Eve Sweetser (2006) With the future behind them: Convergent evidence from Aymara language and gesture in the crosslinguistic comparison of spatial construals of time. *Cognitive Science* 30: 1-49.
- 澤田淳 (2022) 「[訳者解説] ダイクシス研究の新展開」 Fillmore, Charles. J. (著)・澤田淳 (訳) (2022) 『ダイクシス講義』 221-297. 東京: 開拓社.
- 澤田淳 (2025) 「ダイクシスからみた時空間メタファー」 山梨正明 (編) 『認知言語学論考 No. 18』 27-63. 東京: ひつじ書房.
- 進藤咲子 (1961) 「江戸時代・明治時代の「あと」と「まえ」『言語生活』 118 (7月号): 95.
- 篠原和子 (2007) 「空間認知実験と時間メタファー」 山梨正明ほか (編) 『認知言語学論考 No. 6』 1-47. 東京: ひつじ書房.
- 篠原和子 (2008) 「時間メタファーにおける「さき」の用法と直示的時間解釈」 篠原和子・片岡邦好 (編) 『ことば・空間・身体』 179-211. 東京: ひつじ書房.
- Shinohara, Kazuko and Prashant Pardeshi (2011) The more in front, the later: The role of positional terms in time metaphors. *Journal of Pragmatics* 43 (3): 749-758.

- Sweetser, Eve and Alice Gaby (2017) Linguistic patterns of space and time vocabulary. In: Barbara Dancygier (ed.) *The Cambridge Handbook of Cognitive Linguistics*. 625-650. Cambridge: Cambridge University Press.
- Traugott, Elizabeth C. (1975) Spatial expressions of tense and temporal sequencing: A contribution to the study of semantic fields. *Semiotica* 15: 207-230.
- Traugott, Elizabeth C. (1978) On the expression of spatio-temporal relations in language. In: Joseph H. Greenberg (ed.) *Universals of Human Language, Volume 3: Word Structure*. 369-400. Stanford: Stanford University Press.
- 碓井智子 (2003) 「空間から時間へ－「アト」(跡・後) 認知的観点からの考察－」『日本認知言語学会論文集』3: 63-73.
- 渡辺伸治 (2003) 「「前」の用法－統一的説明試論－」『言語文化共同研究プロジェクト2002 言語における時空をめぐって』43-50.
- 渡辺伸治 (2006) 「時間認識と時間表現」『言語文化共同研究プロジェクト2005 言語における時空をめぐって』41-50.
- 渡辺実 (1995) 「所と時の指定に関わる語の幾つか－意味論的に－」『国語学』181: 18-29.
- 渡辺実 (2001) 『さすが！日本語』東京：筑摩書房．

[付記] 本研究は、JSPS 科研費 JP21K00508 の助成を受けたものである。